

ベア・ロジコ株式会社

食品に特化した物流体制を構築 コンプライアンス経営を実践し 安全、高品質、環境対応を実現する

終戦後の食糧難を救うため、山形のお米や農産物を関東方面に運んだことを契機に
運送事業へ進出し、食品専門の物流企業へと成長を遂げたベア・ロジコ株式会社。
現在、同社は食品の物流業務全般を手がけると共に、新たな事業にも積極的に進出。
またコンプライアンス経営により、事業の安全、高品質、環境対応を実現している。



① ベア・ロジコ株式会社 本社
② ベア・ロジコのロゴマーク
③ 代表取締役社長 熊澤 貞二 氏
④ ⑤ ベア・ロジコ株式会社 上山事業所
上山低温貯蔵庫では、食品の輸入原料の通関・
保管（保税蔵置場）を行っています。

の物流事業における礎を築き上げる。その後、地元運送会社を譲り受けるかたがで、本格的に運送事業を営むようになった。

戦後の復興期を迎えると、さらに食材需要は高まっていく。同社は農産物に加え、牛や豚の生体輸送を開始する。また冷凍・冷蔵技術の進展に伴い、生産地で食肉加工が施せるようになると、いち早く冷凍・冷蔵車を導入。定温輸送サービスを提供することによって、着実に業績を伸ばしていった。さらに仙台と名古屋に営業所を開設すると共に倉庫事業を展開するなど事業を拡大。そして創業40周年を迎えた1994年に、社名を現在のベア・ロジコに改称し、経営も二代目社長の熊澤貞二氏に譲り渡した。また同年には、県内に上山低温貯蔵庫を開設し、食品の輸入原料の通関業務や保管（保税蔵置場）業務、輸送業務も手がけるようになった。

確かな経営基盤を築き上げ 新たな事業へも果敢にチャレンジ

現在、同社では仙台・名古屋営業所を拠点として、業務用の冷凍食品やお菓子、農産・畜産加工食品などの保管から流通加工、関東・中京方面への幹線輸送を行っている。またお菓子の原料や、清涼飲料水の糖化製品（食品甘味料）の保管、輸送業務を担うなど、荷主企業の原料調達部門としての役割も果たしている。さらに県内のコンビニ配送も請け負うなど、食品に特化した物流企業へと成長を遂げた。

「当社は創業当時から食品輸送を手がけ、その専門性を高めながら付加価値のあるサービスを提供してきました。早くから冷凍・冷蔵車を導入し、また倉庫事業へ手を広げたのもお客様の多様な物流ニーズに応えるためです。他社と差別化を図れるメニューがなければ、お客様に当社を選んでいただけませんからね」

終戦直後の食糧難を救うため 自ら運送事業に進出する

山形盆地のほぼ中央、東に蔵王連峰を望み、西に霊峰月山を仰ぐ天童市。将棋駒の生産地として知られる同市は、豪雪地域ながら県内では比較的積雪量が少なく、山形市のベッドタウンとして発展してきた。また山形新幹線と東北中央自動車道が市内を縦断すると共に、山形空港も隣接するなど交通の便にも恵まれている。

そんな同市に本社を構えるベア・ロジコ株式会社が、運送事業を始めたのは終戦間もない頃だったという。当時、日本は未曾有の食糧難に直面していた。特に都市部は深刻で、多くの人が食糧不足に苦しんでいた。そこで県内で米穀の販売業を営んでいた先代社長は、地元の運送会社のトラックをチャーターし、山形産のお米や農産物を関東方面へ運ぶ事業に乗り出す。また、これを機に復路で金属部品を山形へ運ぶなど、今日

